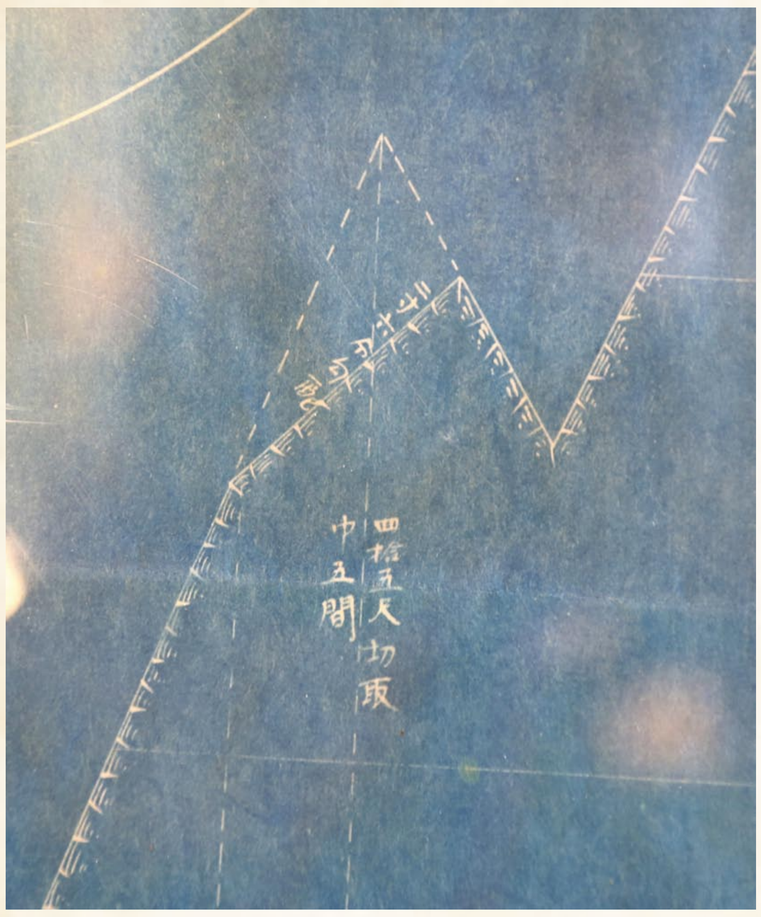
河合白川又間索道線路設計図　解説

これは驚き！①

山を削る！「切通し」



「深さ45尺幅5間切取」の文字と切取り後の地形が描かれている。

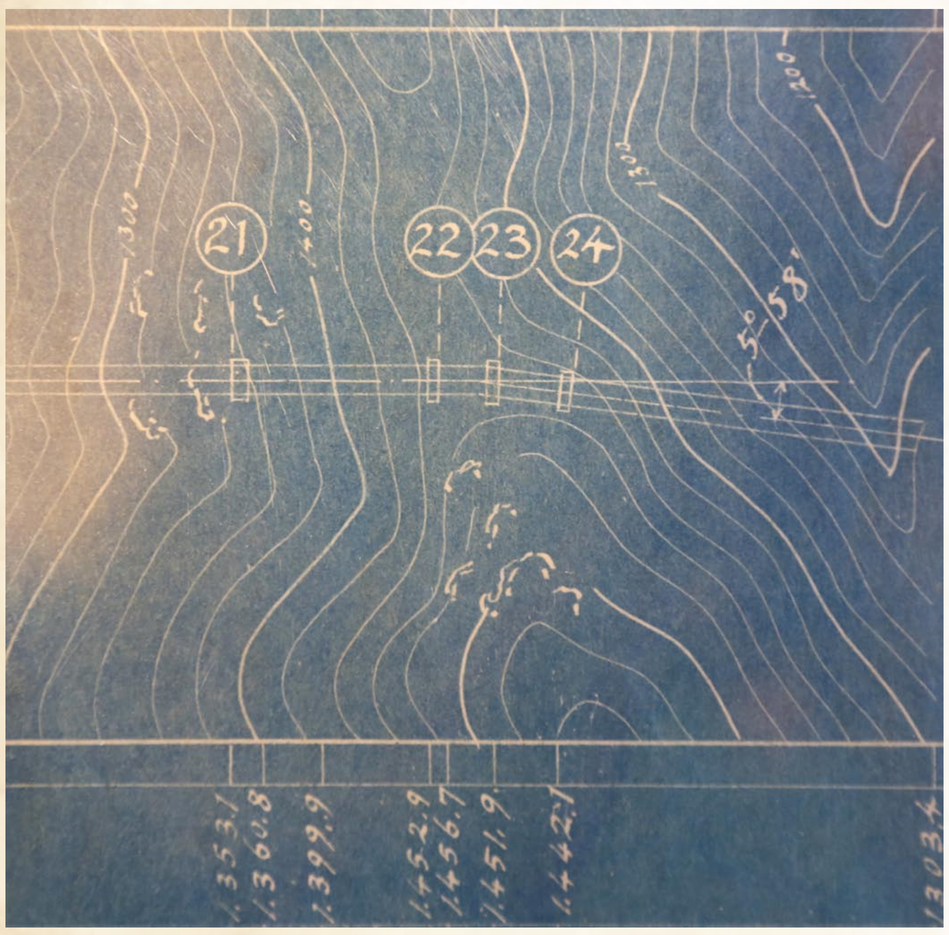
1尺＝30.3 cm	1間＝約1.8m
45尺＝13m64 cm	5間＝約9m
切取る深さ約14m、切取る幅約9mの指示図面	

大規模な切取り―「切通し」と呼ばれる

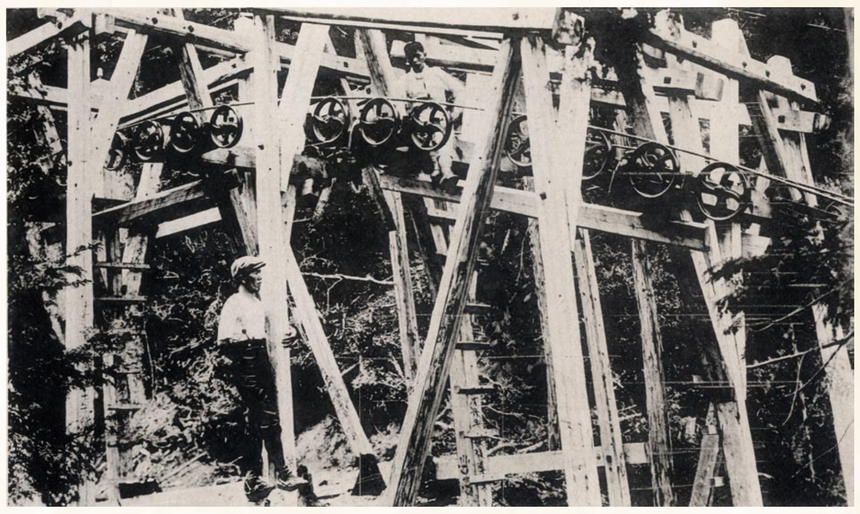
第20号支柱と第21号支柱の支柱間の距離が長い。そのため、搬器および製材品の重量が加算されると、架線（ワイヤー）は大きくたわむことが予想される。そのたわみ分を計算したのが実線である。架線がたわむと山肌に搬器が接触するために、山を削る必要がある。図面にはその削る深さと幅が指示されている。

これは驚き！②

曲がる索道！「屈曲支柱」



第23号支柱は屈曲支柱



白川又索道屈曲支柱

索道は直進が大原則で曲がることはない。曲げてしまうと支柱に圧がかかり、ワイヤーが支柱の車輪から外れてしまうおそれがある。角度を変える必要がある場合、駅を設置することになる。ただし、わずかなカーブなら「屈曲支柱」という特殊な支柱を設け、曲げていくことになる。

図面の第23号支柱が屈曲支柱で、山稜付近で曲がっていることがわかる。図面によると5度58分の角度で曲げるよう記されている。